



2021年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2021年1月29日

上場会社名 手間いらず株式会社

上場取引所 東

コード番号 2477 URL <https://www.temairazu.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 哲男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 木内 健二

TEL 03-5447-6690

四半期報告書提出予定日 2021年1月29日

配当支払開始予定日

2021年3月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第2四半期の業績(2020年7月1日～2020年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第2四半期	837	0.6	604	0.5	605	0.4	402	1.0
2020年6月期第2四半期	842	30.1	601	50.0	602	50.1	398	50.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第2四半期	62.15	
2020年6月期第2四半期	61.54	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年6月期第2四半期	4,522	4,213	93.2	650.38
2020年6月期	4,287	3,894	90.8	601.20

(参考)自己資本 2021年6月期第2四半期 4,213百万円 2020年6月期 3,894百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期		13.00		13.50	26.50
2021年6月期		13.50			
2021年6月期(予想)				13.50	27.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,680	1.9	1,183	1.7	1,183	1.6	778	1.4	120.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年6月期2Q	6,479,280 株	2020年6月期	6,478,584 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2021年6月期2Q	194 株	2020年6月期	171 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年6月期2Q	6,478,573 株	2020年6月期2Q	6,477,734 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①わが国経済の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大及び流行の長期化により社会活動・経済活動が大きく制限され、外出自粛やインバウンド需要の消滅などの影響から、厳しい状況で推移いたしました。また、感染拡大第3波の到来により収束の見込みははまだ予測困難であることから、依然として先行き不透明な状況が続いております。

②当社業績と関連性が高い市場の状況

アプリケーションサービス事業と関連性が高い宿泊旅行業界においては、Go To トラベルキャンペーンの対象外となっていた東京発着の旅行が2020年10月1日から対象となったこともあり、国内旅行の動きが活発化しました。観光庁の調査によると、宿泊施設全体の客室稼働率も2020年7月から9月にかけては30%前後であったのに対し、同年10月及び11月にはそれぞれ42.8%、46.1%*と40%代となり、国内の宿泊需要に徐々に回復の兆しが見え始め、日本政府による国際的な人の往来再開に向けた段階的措置も取られたことにより、わずかながらも訪日外客数の増加もみられるようになりました。

しかし、2020年12月に海外で新型コロナウイルスの変異種が発生及び拡大したことを受け、日本政府による水際対策措置として検疫の強化がされることとなりました。また、日本国内では同年11月から第3波と言われる感染拡大が発生していることから、同年12月28日よりGo To トラベルキャンペーンが全国的に一時停止され、さらには2021年1月8日には1都3県に緊急事態宣言が出されました。これらが宿泊旅行業界のみならず国内経済全体へ及ぼす影響が心配される状況です。なお、当社への影響も懸念されるものの、当第2四半期末日現在において当社の予想と大きく乖離しているものではありません。

*11月数値は第1次速報値であり、第2次速報値(2021年1月29日公表予定)で変更となることがあります。

③業績の概況

このような環境の中、新型コロナウイルス感染症の拡大及び長期化による宿泊需要減少の影響が続いており、当第2四半期累計期間の売上高は837,483千円(前年同期比0.6%減)となりました。また、営業利益は604,862千円(前年同期比0.5%増)、経常利益は605,261千円(前年同期比0.4%増)、四半期純利益は402,625千円(前年同期比1.0%増)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

アプリケーションサービス事業

宿泊予約サイトコントローラー『TEMAIRAZU』シリーズにおいて、インバウンド需要の短期間での回復が見込めない中、メトロエンジン株式会社とBEENOS株式会社の共同事業である、ホテルの長期プラン予約サイト『Monthly Hotel(マンスリーホテル)』、及び株式会社ジャンボツアーズが運営するに北海道や沖縄、離島に強みを持つ予約サイト、『JJ tour』とのシステム連携を開始し、新たな販売チャネルとの連携による宿泊施設の国内における販路拡大を図りました。

その他のシステム連携では株式会社たび寅が提供するブッキングエンジン『Tiger』、インフォアジャパン株式会社が提供するプロパティマネジメントシステム『Infor HMS』との連携を開始しました。インフォアジャパンは、クラウドを用いた業界特化型のビジネスアプリケーションにおけるグローバルリーダーであるInfor Inc.の日本法人です。『Infor HMS』とのシステム連携は、日本国内では『TEMAIRAZU』シリーズが初となります。

また、Go To トラベルキャンペーンの第三者機関としてキャンペーンの条件変更や、対象地域の変更等への速やかな対応を実施し、当社のお客様である宿泊施設がよりキャンペーンを効率よく活用できるよう機能面でのサポートを積極的に行いました。

営業活動においては、引き続きパートナー企業と共同ウェビナーを開催するなど非対面での営業・プロモーション活動を積極的に行うと同時に、営業面でもGo To トラベルキャンペーン対応のサポートに注力しました。

この結果、アプリケーションサービス事業の当第2四半期累計期間における経営成績は、売上高が808,234千円（前年同期比2.6%減）となり、セグメント利益は640,453千円（前年同期比2.5%減）となりました。

インターネットメディア事業

比較サイト『比較.com』においては、広告出稿の見直し、検索エンジンの最適化、ユーザーインターフェースの改善、モバイルユーザビリティの向上等の対策を継続するとともに記事コンテンツの作成をおこないました。

この結果、インターネットメディア事業の当第2四半期累計期間の売上高は29,248千円（前年同期比130.9%増）となり、セグメント利益は20,281千円（前年同期比170.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期累計期間における資産合計は、前事業年度末に比べ235,456千円増加し、4,522,809千円となりました。流動資産は241,118千円増加し、4,460,346千円となりました。主な要因は現金及び預金の増加222,950千円です。固定資産は5,661千円減少し、62,463千円となりました。主な要因は繰延税金資産の減少3,878千円です。

(負債)

当第2四半期累計期間における負債合計は、前事業年度末に比べ83,580千円減少し、308,928千円となりました。流動負債は83,580千円減少し、308,928千円となりました。主な要因は未払法人税等の減少50,211千円です。なお、当社に固定負債はありません。

(純資産)

当第2四半期累計期間における純資産合計は、前事業年度末に比べ319,037千円増加し、4,213,881千円となりました。主な要因は四半期純利益402,625千円の計上による増加と配当金の支払い87,458千円です。

②キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果獲得した資金は310,259千円（前年同四半期累計期間は384,225千円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期純利益605,261千円による増加と法人税等の支払247,537千円の減少等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローはありません。（前年同四半期累計期間は633千円の使用）

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は87,308千円（前年同四半期累計期間は129,197千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払いによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年6月期の通期の業績予想につきましては、2020年8月3日付の決算短信において発表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,971,358	4,194,309
売掛金	235,934	252,353
その他	19,966	19,203
貸倒引当金	△8,030	△5,519
流動資産合計	4,219,228	4,460,346
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,167	2,167
減価償却累計額	△2,167	△2,167
建物(純額)	—	—
工具、器具及び備品	27,586	30,649
減価償却累計額	△24,660	△28,386
工具、器具及び備品(純額)	2,925	2,263
有形固定資産合計	2,925	2,263
無形固定資産		
ソフトウェア	978	793
無形固定資産合計	978	793
投資その他の資産		
繰延税金資産	37,754	33,876
その他	29,612	29,880
貸倒引当金	△3,146	△4,351
投資その他の資産合計	64,220	59,405
固定資産合計	68,124	62,463
資産合計	4,287,353	4,522,809
負債の部		
流動負債		
未払法人税等	261,917	211,706
その他	130,591	97,222
流動負債合計	392,509	308,928
負債合計	392,509	308,928
純資産の部		
株主資本		
資本金	713,433	715,438
資本剰余金	1,004,433	1,006,438
利益剰余金	2,177,243	2,492,410
自己株式	△266	△404
株主資本合計	3,894,843	4,213,881
純資産合計	3,894,843	4,213,881
負債純資産合計	4,287,353	4,522,809

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
売上高	842,211	837,483
売上原価	58,748	61,772
売上総利益	783,462	775,711
販売費及び一般管理費	181,666	170,848
営業利益	601,796	604,862
営業外収益		
受取利息	253	227
その他	630	188
営業外収益合計	884	416
営業外費用		
雑損失	—	18
営業外費用合計	—	18
経常利益	602,680	605,261
税引前四半期純利益	602,680	605,261
法人税、住民税及び事業税	199,770	198,757
法人税等調整額	4,243	3,878
法人税等合計	204,013	202,635
四半期純利益	398,667	402,625

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	602,680	605,261
減価償却費	932	846
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3,014	△1,306
受取利息及び受取配当金	△253	△227
売上債権の増減額 (△は増加)	△31,222	△17,734
前払費用の増減額 (△は増加)	△12,838	3,828
未払金の増減額 (△は減少)	△4,361	△380
未払費用の増減額 (△は減少)	1,695	3,157
未払消費税等の増減額 (△は減少)	3,288	△30,967
預り金の増減額 (△は減少)	△513	1,207
その他	15,324	△6,115
小計	571,716	557,568
利息及び配当金の受取額	253	227
法人税等の支払額	△187,744	△247,537
営業活動によるキャッシュ・フロー	384,225	310,259
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△633	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△633	—
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△129,073	△87,170
自己株式の取得による支出	△124	△138
財務活動によるキャッシュ・フロー	△129,197	△87,308
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	254,394	222,950
現金及び現金同等物の期首残高	3,345,274	3,971,358
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,599,668	4,194,309

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第2四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月25日 定時株主総会	普通株式	129,551	20	2019年6月30日	2019年9月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年2月3日 取締役会	普通株式	84,219	13	2019年12月31日	2020年3月4日	利益剰余金

II 当第2四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年9月28日 定時株主総会	普通株式	87,458	13.5	2020年6月30日	2020年9月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年1月29日 取締役会	普通株式	87,467	13.5	2020年12月31日	2021年3月1日	利益剰余金

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	アプリケーション サービス事業	インターネット メディア事業	合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	829,543	12,667	842,211	—	842,211
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	829,543	12,667	842,211	—	842,211
セグメント利益	656,893	7,486	664,379	△62,583	601,796

(注) 1. セグメント利益の調整額△62,583千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	アプリケーション サービス事業	インターネット メディア事業	合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額(注) 2
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	808,234	29,248	837,483	—	837,483
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	808,234	29,248	837,483	—	837,483
セグメント利益	640,453	20,281	660,735	△55,873	604,862

(注) 1. セグメント利益の調整額△55,873千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。